

# ひょうきん徹ちゃん!

(昭和二十五年十一月)

徹之中心

## “自立に向かって”レッツゴー!

明石洋子

(3)

こんにちは、皆さん! 明石徹之です。

昨年十二月の市民講座を聞かれましたか? 「その後の徹之の様子を会報に載せたい」との事務局からの「要望にお答えして、またまた登壇いたしました。佐賀から引っ越してきて一年半が過ぎ、すっかり地域に定着しております。毎日学校(日吉中計画学校)に楽しく行っていますし、休日には旅行を楽しんでいます。一週間家事手伝いをしたおごっかいをせっせとためては旅行費用にあてています。自分の趣味に使うので、お金のため方、使い方もとても上手になりました。

### 自分で稼いで

### 主体的に生きていくために

さて、徹之の中学卒業後の進路ですが、「障害児には養護学校しかない」というのは残念なので、進路拡大のため、公立高校(さしあたって定時制)を目指しています。選択できる道をいくつか用意できれば幸です。そういう意味では大学だって・・・なんて夢だけはでっかく持っています。でも大切なのは、どの学校に行くかではなく、「自分でお金をかせいで、自分の意志で生活できる、すなわち自分が主体的に生きていく」と思っています。

二歳の時、「自閉症」と診断され、①人に関心を持たない、②言葉の理解ができない、③社会への自立は困難・・・等々重い障害と書われましたが、私はそれでも共に生きていかななくてはいけないのだから、たとえ普通児の何十倍、何百倍の時間を費やそうと、ひとつひとつ学習しながら、地域の中で当り前に育てていこう」と決心して、①物への関心を人への関心に向け

るように、また②言葉かけも

豊富にして言葉を使えるようにと日常生活の中で工夫して育ててきました。(詳しくは市民講座でお話しましたので、略します。)そして三番目の「社会への自立は困難」に挑戦しています。

自立するためには、まず、『自分の生活を自分の主体性で創り出す力を養うこと』。そのためには『基本的生活習慣を確立し、生活体験をひとつひとつ積み重ねていくこと』で、趣味娯楽の幅を拡げ、友達(将来は恋人も)との人間関係もつくり、生きていく楽しさを知る」ことが大切でしょう。そして、衣、食、住の生活や、趣味や人とのつきあいに、お金を有効に使えて初めて、賃労働の大切さがあり、働く意欲もでるのではないかと思えます。

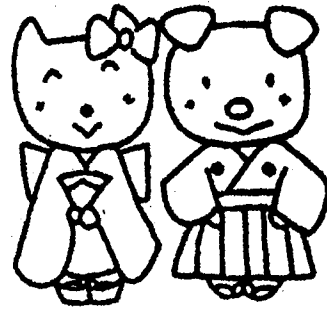
中二の現在、定時制高校卒業時の六年後を目指して、①賃労働ができるための能力を少しでも多く見出だすこと、②理解ある職場はできるだけ多く開拓すること、③お金を有効に使えるように趣味や人間関係の拡がりを含めて生活していく力をつけること、この三点を重点的に心がけたいと思っています。六年間で、出来る限り多くの職場を経験して、本人が就労時には自分の意志で職場を選択できるようになれば、こんな幸せなことではないと思っています。

### 職場実習を経験

その第一歩として、早速この夏休み行動を開始しました。中二で一日八時間の労働は少々かわいそうかなとも思いましたが、企業で働くためには、家庭でどのような生活習慣をつければいいのか、また本人の労働のイメージを家庭内から企業へ拡げてやりたい。等々、私と徹之の「就労のイメージづくり」のために、職場実習を計画しました。

欠けている能力また生活習慣を学習させるためには、一年も二年も、もしかしたら五年位かかるかもしれない。スタートするに早すぎることはないと思いました。朝七時半に家を出て夕方六時半に帰宅する生活を七日間きちんと終え、社長が驚かれる程の仕事をこなし、徹之は一段とたくましく成長したようです。ベルが鳴ったら仕事をすとか、企業で生活も日常生活の一つ一つの積み重ねが成果となって現われます。私自身、職場実習が終わるまで不安で、また徹之が労働しているイメージもわきませんでした。が、この経験が、私自身の視野を人間関係をまたひとつ広げたようです。

就労する意欲は、「仕事を通して、人に認められたという実感」と「賃金」だと思いますが、徹之には前者の方は無理だから(いつかはこの気持ちも獲得できると嬉しいですね)、せめて後者、お金の大切さだけは幼い頃から学習させました。この辺の話は、小児療育相談センターの広報紙「かさぐるま」に載るそうですのでお暇な折に読んでいただけたらと思います。



### 選択の幅を拡げよう

将来、徹之が、「自分の生活(食えること、寝ること、楽しむこと等)を管理されるのではなく、自分の意志で創り出していく」そんな人生を送らせてやりたいと思います。それには「自分でお金を稼いで、自分の生活を主体的に決める」ことが必要でしょう。本来に、この課題はとても難しいことですが、あきらめないで、一歩一歩自立に必要な生活習慣だけは身につけさせていこうと思っています。

選択の余地があるように、進路の拡大と就労できる職場の開拓を、皆さんと共に、知恵を出しあいながら拡げていきましょうね。